

# 神経病理インデックス 第2版

新井 信隆 ● 著

B5・頁272  
定価:11,000円(本体10,000円+税10%) 医学書院  
ISBN978-4-260-05252-8

私は現在、「頭部外傷の神経病理」を専門として実務と研究を行っているが、この道を歩むきっかけとなったのは、2005年に出版されて以来高い評価を得ていた本書の初版との出会いであった。

5年間の米国研修の中で、私は神経病理に強く惹かれるようになったが、2007年に帰国した時点では、法医学分野での専門を中枢神経とするかどうか迷っていた。なぜならそう、脳は「ややこしくて、難しく、とっつきにくい」からである。しかし本書の初版に出合っただけで私の迷いは吹き飛んだ。模式図を用いたわかりやすく丁寧な解説で神経病理の面白さを伝える本書を読み、神経病理を学ぶことの楽しさに目覚めた私は、「頭部外傷の神経病理」を生涯の専門分野とすることに決めたのである。

学会などで新井信隆先生の講演を聴講した方ならご存じであろうが、新井先生は講演が抜群にうまい。間違いなく国内トップクラスだ。柔らかい語り口ながら、講演中は一瞬たりとも退屈させない。少し話は逸れるが、2016年に私が日本法医学病理学会の前身である法医学病理研究会の企画委員長に就任した時にまず計画したのが、新井先生を唯一の講師とする2日間にわたる神経病理セミナーであった。私としてはもちろん「新井先生でなければ意味がない」という気持ちで企画したものであったが、冷静に考えればこれはかなり無謀な企画だ。なぜなら、もし新井先生に何らかのトラブルが起こった場合、2日間のセミナーが即中止となるからだ。しかし、新井先生は長丁場のセミナーを見事にやり遂げられ、参加した法医学関係者にも大好評、大満足のセミナーとなった。そのセミナーでも存分に発揮された、「専門外の人に神経病理をわかりやすく教える技術」は当然インデックスにも反映されている。

## 私の人生を変えた本の待ちに待った改訂版



さて、このように私の人生を変えた本が18年ぶりに改訂されると聞いて心待ちにしていたが、期待をはるかに超える充実した改訂となっていた。

まず、フォントの種類、文字の大きさの使い分けなど、細かいところまで気を配り、読みやすさを追求した改訂が行われたことは明らかだ。そして驚くべきことに、初版でもすでに好評であった模式図は、今回全面改訂されている。これはかなりの手間であったはずだ。初版を持っている方はぜひとも新旧の模式図を比較してみたい。また、「総論」の前に、新たに43ページにわたる「染色法」パートが追加されている。しかもただ染色法を羅列するのではなく、「コスパのよい診断のポイント」として、限られた数の標本、染色から正確な診断を行うことの重要性を山登りに例えて説明しているのは秀逸である(添えられた表も本当に素晴らしい!)。神経病理を学び始めた人がまず頭を悩ますことの1つが、使用される染色法の多さであるが、このパートを読めばもう悩む必要はない。

本来は法医学のトピックである「頭部外傷」の章も文句のない仕上がりである。今回大幅にページ数を増した本章では、この分野における最新の重要トピックである「硬膜境界細胞層」「揺さぶられっ子症候群」「中村I型」についてもしっかり言及されており、新井先生の法医学に関する知識の深さに改めて驚かされた。現在も複数の法医学講座から依頼を受けて、司法解剖の神経病理学診断を積極的に行っておられる新井先生ならではの内容であろう。

さらに、第2版には何と「パラパラ漫画」がついているのである。いやはや、一体どこかの病理医が自身の名著の改訂を好機と見てパラパラ漫画に挑戦するだろうか……(笑)。このように、一流の神経病理医でありながらユーモ

## 【第5回】放射線

放射線が医学に貢献した程度は言葉に尽くせない。MRI時代になっても単純X線検査はまだ重要であり、放射線は検査と治療の両方で大きな役割を担う。一方で、原発事故による放射能漏れも忘れてはならない。

放射線の研究は1895年のレントゲンによるX線の発見に始まるが、放射線の真の発見は1896年のベクレル(ウラン塩の研究中に)により、そして用語としての「radiation/radioactivity(放射線/放射能)」を命名したのはポーランド人の女性マリア・スクロドフスカ(後のキュリー夫人)である。彼女は「放射線はウラン元素の原子の属性」とした(キュリー夫人著『ピエール・キュリー伝』、白水社:1959)。1903年、放射線の研究でキュリー夫妻とベクレルにノーベル物理学賞が授与された。キュリー夫人は1911年にラジウムとポロニウムの発見でノーベル化学賞も授与され、ノーベル賞を2回受賞した唯一の女性である。筆者はパリを訪れた時、フォーコの振り子で有名なパンテオンの地下にあるキュリー夫妻の墓に詣でることができて感無量であった。

「放射線」という用語が日本で初出するのは、Google Scholarによれば1896年の薬学雑誌「Röntgen氏ノX放射線ニ就テ」という論文である。論文ではないが、物理学者の寺田寅彦が記した同年の日記に「獨逸ナルRöntgen氏ノ發明ニカ、ルX放射線ヲ應用シテ」という一文がある(「日国友の会」)。中国での初出は1909年の『理科通証』である(『新華外来詞詞典』)。

一般の文章に「放射線」が最初に登場するのは、『日本国語大辞典』によると、1928年の『夢声半代記』(徳川夢声著)にある「その一封を懐に入れたら、まるでラヂウムの様に放射線を発して、胸のあたりがホヤッと暖かくなった」という一文である。「放射線」が「放射状の線」の意で使用されるのは別にして、「日国友の会」では1911年の『霊怪の研究』に「いく子の頭脳より一種の放射線を発するを発見し」が投稿されており、夢声よりも早い。

「放射線治療」を意味するirradiationの接頭語irはinと同じでrの前に来る時にirになる。接頭語in=irは「反対/否定」と「中へ」という二様の意味を持っており、irregularやirrelevantは前者、irradiationは後者であって決してradiationの否定ではない。なお、接頭語inはlやmの前でilやimになる。

福武 敏夫  
亀田メデイカルセンター 脳神経内科部長

逆輸出された  
漢字 医学用語  
漢字好きな神経内科医が、中国に逆輸出された漢字医学用語の語源を探ります。

アにあふれた新井先生の人間性はインデックスの随所に反映されている。くれぐれも細かい部分を読み飛ばさないことである。

ところで、新井先生が2019年に出版された『マクロ神経病理学アトラス』も素晴らしい本であった。あのような美しい写真にあふれ、神経病理に関する実務を行う者にとって「かゆいところに手が届きまくる」マクロのアトラスは世界的に見ても他にないと思う。神経解剖や神経病理に特に興味のある方は、インデックスとこのアトラスを併用して実務を行われることを強くお勧めする。

あのときの私と同じように、中枢神経の複雑さに不安を感じている皆さん、そして今の私のように、自身の専門分野の中で神経病理を極めていきたいと考えている皆さん、この改訂版インデックスをもって実務に臨めば、中枢神経に関する理解のプロセスは加速し、脳について学ぶことが心底楽しくなることは間違いありません。

ん、そして今の私のように、自身の専門分野の中で神経病理を極めていきたいと考えている皆さん、この改訂版インデックスをもって実務に臨めば、中枢神経に関する理解のプロセスは加速し、脳について学ぶことが心底楽しくなることは間違いありません。

## 医学界新聞 WEB版

- バックナンバーが読めます
- キーワード検索できます

www.igaku-shoin.co.jp/paper



## 外用療法のコツを凝縮してお届けします!

### ジェネラリストのための これだけは押さえておきたい 皮膚外用療法

安部 正敏

皮膚疾患を治療するにあたって、最低限押さえておきたい外用療法のポイントをわかりやすく説き起こした1冊。塗り方、用量、基剤の使い分け、古典的外用薬、ドレッシング材、洗浄剤、化粧品、市販衛生材料など、外用療法の基本から解説。新薬など診療の幅を広げる外用薬は特論として取り上げた。日常診療でよくみる疾患は、診断・治療プロセスから具体的な処方例までコンパクトにまとめている。臨床現場で今すぐ使える知識が満載!

- 目次
- イントロダクション
- 総論 外用薬の基本
- 特論 知っておきたいこのくすり!
- 各論 外用薬はこう使う!



### ジェネラリストのための これだけは押さえておきたい 皮膚外用療法

安部 正敏



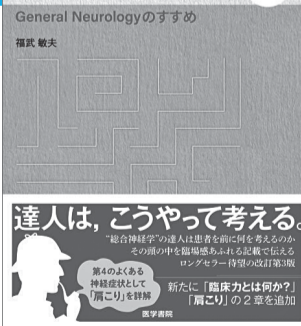
●A5 2023年 頁276  
定価:4,620円(本体4,200円+税10%)  
[ISBN978-4-260-05023-4]

書籍の詳細は  
こちらから



医学書院

## General Neurology 神経症状の 診かた・考えかた 第3版



- Contents
- 序章 臨床力とは何か?
- 第I編 日常診療で遭遇する患者
- 第II編 緊急処置が必要な患者
- 第III編 神経診察のポイントと画像診断のピットフォール

●B5 2023年 頁440 定価:5,940円(本体5,400円+税10%)  
[ISBN978-4-260-05103-3]

## General Neurology の必読書、待望の改訂!

# 神経症状の 診かた・考えかた

General Neurologyのすすめ 第3版

福武 敏夫



医学書院

脳神経内科学の肝である神経症状の診かた・考え方を、第一人者がまとめた実践的な教科書。診断への道筋がわかる臨場感のある記載が支持され、読み継がれてきた定番書が、新たな症例、知見を盛り込み、全体にわたってアップデート!